

大豆大研究 ～すがたをかえる大豆～

目 標

- ・収穫体験を通じて、「食」に対する関心を高め、食べ物を大切に作る心をもつ。
- ・大豆の収穫を実際に体験することで、国語「すがたをかえる大豆」の学習の理解を実感を伴いながら深める。

育てたい力

- 疑問に思ったことを意欲的に調べる力。
- 収穫した体験を、他教科・他領域と結び付けながら発展的に考える力。
- 食材を収穫することで、食べ物や自然を大切に作る心情。

主な学習活動（国語科：14 時間、総合的な学習の時間：15 時間）

大豆について 知り、学ぶ (10 月)

・国語科「すがたをかえる大豆」で、大豆がどのように食品に変わり、食卓に並んでいるのかを学習した。「食べ物のひみつを教えます」の学習では、収穫した大豆を豆腐に美味しく加工する方法を調べ、作り方をリーフレットにまとめる活動を行った。



巴農場で 収穫体験 (10 月)

・農場で収穫体験を行い、枯れた茎から鞘を取る大豆の収穫を体験した。畑の中を自由に収穫させていただいたことで、畑の広さや動植物の多様性など豊かな自然環境の中で大豆が大切に育てられていることを実感した。

・算数科「重さ」の学習では、おいしい豆腐作りのために、大豆の量を量ったり比べたりする活動を行った。

・収穫した大豆は、手作業で殻をむいた。その後、食物が様々な工夫をされて食品になっているということを実感するために、収穫した大豆を使った豆腐づくりを計画した。豆腐の作り方について調べてから、実際に作ることで、手づくりのよさやおいしさに感動し、食への関心を一層深めた。



調理実習 豆腐づくり (12 月)

子どもの声（感想）

「今まで苦手だったけど、おいしく食べることができた。」「初めて畑を見て、その広さに驚いた。」という感想があった。きなこや煎り大豆の作り方などを家庭で調べるなど、大豆についてより深く知りたいという意欲をもつ子どもがたくさんいた。

取組の成果

畑での収穫はおろか、畑を見たことがないという子どもが多い本校にとっては、豊かな自然環境に触れながら、食についての理解を深める体験は、非常に貴重であった。この体験を軸にして、理科・算数科・国語科・総合的な学習の時間と横断的に授業を進めることで、どの活動においても意欲的な子どもの姿が見られた。

体験先、関係機関

巴農場（江別市）